

# 6 音 楽 科

川口万里・福田秀範

## 1. 音楽科が育むもの

文部省学習指導要領の音楽科の目標と本校の研究テーマ「自立に向かう子どもたち」を受けて、音楽科では、「生涯にわたって音楽に親しむ態度や意欲の育成」に重点を置いて、取り組みを行ってきている。豊かな現代社会では、日常生活において様々な音楽があふれていて、音楽そのものの価値観も多様化してきた。人々は自分の好みに応じて、聞きたい・演奏したい曲を自分で選び、自分なりに音楽を楽しんでいる。この姿は、確かに「音楽に親しむ」姿ととらえることができる。この現象面だけを見て、教科としての「音楽」は必要ではないということがいろいろなところで話題にされている現状がある。そこで、本校では「生涯にわたって」という視点を特に大切と考え、学校における音楽教育の必要性を見出すとともに、その意義を追究していく授業を行っていきたいと考える。つまり、学校での音楽活動が土台となり、そこで育まれた「なんて音楽っていいんだろう。」という感動体験が、生涯を通じて音楽を楽しんでいける確かなものを子どもたちの内面に培っていくような授業づくりである。

## 2. 音楽科でめざす「自立に向かう子ども」の姿

音楽科では「自立」を「自分から楽しく音楽に親しんでいる」姿と大きくとらえ、めざす子ども像を以下のように設定している。

- ◎楽しく歌ったり、演奏したりする子ども  
(自分で歌を歌うことや、楽器を演奏することに喜びを感じる子ども)
- ◎楽しく自分自身で音楽をつくる子ども  
(自分自身で、音楽や音楽表現をつくる楽しさがわかる子ども)
- ◎楽しく様々な音楽をきく子ども  
(音や音楽に耳を傾けることを楽しめる子ども)
- ◎音楽科で学習したことをもとに、自分の生活において進んで音楽と関わろうとする子ども  
(音楽活動を自分から楽しめる子ども)
- ◎ともに音楽活動をすることによって、感動を共有できる子ども  
(人とかかわりから、音楽活動の楽しさを見出せる子ども)

## 3. 「自立に向かう子ども」を育む授業の具現化

音楽科の研究テーマに迫るために、次の3つの場を大切にしたい授業づくりを行っている。

### (1) 「楽しさ」が実感できる場

様々な活動の場面で、子どもたちが「楽しかった」と感じて思える授業にしていきたい。「楽しかった」と言えるのは、まだやりたいという気持ちが残っていたり、自分の力が発揮できたり、自分の考えていたとおりの表現ができたり、振り返る過程で、次への課題がどんどんわいてくる状況などが挙げられる。

### (2) 興味・関心が深まる場

子どもたちが音楽活動を行う過程で、もっと追究していきたいという興味・関心が深まる授業づくりをしていきたい。そのために必要なこととして、次のことを大切にしていく。

- ・学習過程は教師主導ではなく、音楽に向かっていく子どもの気持ちを大切に、それに沿った

展開づくりを心がけていく。

- ・音楽に興味をもち、楽しむために必要な基礎的な能力（歌唱や器楽の表現技能など）最低必要なことが、全ての子どもに身につくようにする。
- ・教材は子どもに愛好されるもので、しかも心情を揺り動かすような魅力のあるものを選択する。また、子どもの希望による曲も適宜取り上げるような柔軟性ももつ。

### (3) 自分で決める場

音楽活動に取り組む子どもたちの意欲は、授業の最初の段階で、いかにめあてが決まり、表現への見通しが立つかが大きく影響を与える。そこで、次のことを大切にしていこう。

- ・学習のめあてを自分で決め、それに向かってじっくり取り組む時間や場を設定して、楽しく学習できるようにする。
- ・子どもの音楽へのイメージを大切に、それを自分で決めた様々な表現活動を通して、自己実現できるような場を設定し、達成への満足感がもてるようにしていく。
- ・自分で決めた表現活動などがより実現可能になる場として、同じ思いの子ども同士でのグループ学習を積極的に取り入れ、友だちと協力して表現することによって得られる感動を共有できるようにしていく。

## 4. 総合的な学習とのかかわり

本校では、3年生以上で「人間」「環境」「自分タイム」「コンピュータ活用」という4領域を設定し、実践を行ってきている。（低学年は生活科の授業内容に組み入れ研究している）本校音楽科では、それぞれの領域において、音楽科としてどのようなアプローチの方法があるかを現在模索中である。直接体験を出発として行われる総合的な学習において、そこから得た感動体験を表現する活動には、特に音楽としてのかかわりが大きいと考えられる。次に示すのは、現在実践をすすめているもの、あるいは今後の研究の見通しを示したものである。

「環境」……………環境に目を向けていく直接体験をきっかけに、その感動体験を歌にして表現したり、様々な音素材を使って表現する活動へと発展できる。

「人間」……………さまざまな人とかかわりを重視した領域である。かかわるきっかけとして、音楽を媒体にすることで、心が通い合うきっかけとなったり、お互いの文化交流を深める活動へと発展できる。

「自分タイム」

……………自分の興味・関心に応じて自由に課題を設定し、学習を進めていける領域である。子どもの興味・関心が音楽に向いたときに、一斉の授業形態では味わえない様々な音楽活動を自分が主体的に行うことができる。

「コンピュータ活用」

……………これまで高度な知識や技能がなければ困難だった「ふしづくり」などの活動が、楽譜作成や自動演奏の機能などを活用すれば容易になる。そこから、子どもの表現活動の可能性を広げることができる。子どもたちの自作の曲を生かした表現（ミュージカルやオペレッタなど）の創作がその例である。

<参考文献> 『新小学校教育課程講座 音楽』金本正武・川池 聡（編著）

ぎょうせい 1999年

『音楽科の学習指導の改善の視点』金本正武

『初等教育資料』平成10年6月号（No.687）

## 5. 成果と課題

音楽科としてめざす子どもたちの「自立」の姿を「自分から楽しく音楽に親しんでいる」姿ととらえ、子どもの実際の姿から成果と課題について述べていきたい。

### <成果>

(1) 「楽しさ」を実感できていたか。

「楽しい」という言葉については、①未知のものを徐々に自分の納得できるものとして引きつけていく喜び②その過程で得られる技能習得の喜びや満足感③集中して取り組むことから生まれる充実感や充足感④一人では経験できない集団活動を通して得られる喜びと整理してとらえている。

歌唱では、低学年のうちから、音楽朝会やCDなどの音楽鑑賞を通じて、高学年の無理のない発声の仕方にふれることで、「あんな声で歌いたい」というあこがれを抱き、自分の納得のいく声で歌う子どもが増えた。

合奏では、自分の選んだ楽器で演奏できる場を多く取り入れていった。自分で選んだ楽器ということで、休憩時間に音楽室にやって来て、パートの練習など自主的に練習しにくる姿も見られ、合奏へ取り組む意欲の高まりが見られた。

また音楽朝会も日々の授業と連携し、単に全校児童が集って歌う場としてではなく、授業や朝の会などで歌ってきた「今月の歌」を中心にして、全校で踊る場あり、実習生や教官の合唱や合奏を聞く場あり、低中高が別のパートを練習してきて、その場で初めて合唱に挑戦する場ありと、様々な角度から、集団でしか味わえない、しかも子どもたちが「音楽が楽しい」と思える音楽活動を追究してきた。今後も継続していきたい。

(2) 自分で決める場は子どもの自立とどうかかわったか。

サブテーマ「自分で決める場を大切に」をうけ、音楽科では、題材の中で自分で決める（選ぶ）場をいろいろなところで設定した。

歌唱では、歌のイメージをふくらませる場面で、教師が準備した絵などの資料を提示するというよりは、自分でそのイメージに合うものを探してくる活動を、声の出し方や表現方法などは、同じ曲でもいろいろな音源で聞いてみる中で、自分のめざしていきたい表現を自分で決める活動を設定することで、自分なりの思いをもって歌う子どもが増えた。

合奏では、自分の選んだ楽器ができる限り生かせるような授業づくりを行っていった。教科書にも増えた楽器指定のない楽譜では、いろいろな組み合わせで曲の雰囲気はずいぶんと変わってくることを自分たちの耳を通して直接体験することができた。また楽器指定のある楽譜でも、節の一部を自分たちでリズムを変えることで、自分たちが一番表現したい演奏を追究する姿が見られた。

つくって表現する活動では、楽器に限らない様々な音素材を使った活動を多く取り入れ、実践を行った。その結果、自分の表現したい音を追究していく過程で、いくつかの音素材（楽器を含む）を選択し、いろいろ試す中で自分のイメージに合う音を見つけていく姿が多く見られた。「お話を音楽で」という総合的な音楽活動の題材では、歌、合奏、効果音づくりなど自分の興味ある活動を自分で決める場を大切に、子どもの関心・意欲を高めることができた。

### <課題>

自分で音素材（楽器）を決める（選ぶ）際に、この曲の雰囲気にはこの楽器が合うからといった音楽的観点よりも、学年が上がるにつれて、なかのよい友だちと一緒にいいから、という人間関係に影響される子どもがいる。自己決定の質的な高まりをめざしたい。

また、今後は総合的な学習を視野に入れた取り組みを充実していきたい。具体的には様々なジャンルの教材の選定（外国の歌、平和の歌など）、保護者や地域の方と子どもたちが直接かかわりを持ちながら、音楽的な演奏技能や知識を高めていけるような人材ネットワークの作成などである。